

中津祇園―歴史と伝承―(3)

中津祇園保存振興会

金丸吉郎

戦後の混乱期から立直った日本は、やがて経済成長期に入り、高度成長ですさまじい発展をしてゆくが、若者は故郷を捨て都市へ都市へと転出してゆく。

地方都市中津も、同調するかの様に、人口は年々減ってゆく。

永年続いた店をたゞんで、他都市へ移転してゆく者も数多く、町全体に活気がなくなり、さびれてゆくばかりの状態となった。

この様になったらお祭りどころではない。

伝統の祇園祭も、年々寂びれてゆくばかりで、車を出す町内も少なくなってしまった。

何とかしなければ、何とかしなければと織者の間で、論議が高まって来た。

そして、関係者が上下一体となって、こゝに「中津祇園保存振興会」というものが生れたのである。

昭和四十六年の春である。

度々の会合と、市長、市議会にも協力を依頼して、陳情書、請願書を提出して採択された。

市内の企業や商店、一般市民にもよびかけて、趣意書を送り会員募集にのり出した。

その趣意書は次の通りである。

中津祇園保存振興会々員募集趣意書

中津祇園は、三〇〇有余年の伝統を誇り、宇佐八幡夏越祭、小倉祇園祭と共に、豊前の三大祭と呼ばれその昔は、藩命をも

って各町によびかけ、上八町、下八町より、名物の祇園車が繰り出され、その祭典は盛大にかつ豪華絢爛でありました。中津市の商工業も、祇園の市と並行して発展し、中津は豊前繁華の地として、謳われて参りました。

而し、ご承知のように、近年の経済の高度成長に基因する、人口の都市集中化レジャーの多様化、加うるに交通事情の悪化等に伴い、年々衰微の一途をたどる状態であります。

つきましては、さびれてしまった中津祇園の保存振興について、中津市の格別な御援助並びに、中津商工会議所など、各関係者の御理解、御協力を得まして、上下祇園の一本化を図り、祇園の保存振興を目的として、中津祇園保存振興会を結成する運びと成りました。

よって保存会を中心として、左記事業の推進を図り、郷土の文化財産として、永く保存維持を行うと共に、往年に勝るよう、中津祇園を復活させて、本市政の発展に寄与すると共に、併せて、観光中津市のシンボルにも致したいと思います。

ここに、市民各位におかれまして、この趣旨にご賛同いただき、会員として、本会の振興発展に、ご協力賜りますようお願い申し上げます。

記

- 一、祇園車の保存維持に関する事
- 二、祇園の振興宣伝に関する事
- 三、その他祇園に付帯する事業

昭和四十六年六月一日

中津祇園保存振興会発起人

中津商工会議所会頭職務代行者

原 戸 滝 夫

中津市観光協会長

瀬 口 繁 雄

中津神社責任総代

山 本 武

關無浜神社責任役員

隈 井 馨

こうした檄文を発表したため、全市は漸く祇園祭に対する気持を蘇らせた。

そして昭和四十六年七月の祇園祭から、上下祇園祭日を一定にして、協調した祇園祭が行われる様になったのである。それから早くも、十年の歳月が経った。

中津祇園は年々盛大さをとり戻し、中津祇園保存振興会は、着々とその成果をあげて来たのである。

併せて、「中津の郷土史を語る会」という、中津の郷土史を掘り起して、そのよさを保存してゆこうとする会も生れ、強力に中津祇園振興に側面から協力した。

この様に全市的の協力により、昔の賑やかな祇園祭に復活することが、出来たのである。

幾多の苦難を越えて、この振興会の設立にご努力下さった方々、中津市、中津商工会議所、中津観光協会、其のご協力の方々に深く感謝申上ぐると共に、歴史ある中津祇園が益々発展してゆくことを心から祈りながら擲筆する次第である。